

花粉症のヒスタグロビン注射 同意書

ヒスタグロビン注射をお考えの方は、花粉症シーズンが始まる1カ月前に始めることをおすすめしています。ヒスタグロビン注射による非特異的減感作療法は、週1~2回程度の頻度で6回行います。これによって3~4か月間全てのアレルギー反応を大幅に抑えることが期待できます。

わたしたちの体内ではアレルギー物質・抗原（花粉など）が侵入すると、それに反応してIgE抗体が作られ、再び体内に抗原（花粉）が侵入すると、IgE抗体がすばやく抗原（花粉）と結びつき抗原の活動を抑え込みます。その際、ヒスタミンなどの化学物質が放出されます。このヒスタミンが、くしゃみ・鼻づまり・鼻水・目のかゆみの原因となるのです。

ヒスタグロビン注射は、このアレルギー反応の元になるヒスタミンの過剰な発現を抑制し、また、好酸球浸潤を抑制してくれます。ヒスタグロビン注射の効果発現は緩徐で、注射後3~4週間を要します。そのため、シーズン前に始めることで、体内でアレルギー反応が起き、ヒスタミンが放出されてもヒスタミンの発現を抑制しているので、アレルギー症状を弱めることができるのです。

当院ではアレルギー諸症状の鎮静化に効果的なノイロトロピン注射も併せて行っていますので、ヒスタグロビン注射とノイロトロピン注射との相乗効果が期待できます。（効果には個人差があります）
治療法は週に1~2回 計6回を1クールとして注射を行います。

**ヒスタグロビン注射は保険が適用されます。
まず適応になるか、アレルギー検査 V39 が必要です。**

アレルギー検査 V39 の結果次第でヒスタグロビン注射が適用になるかどうかを医師が判断いたします。（3割負担 5000円ほど）

また、1年以内のV39の結果を持参して、適用になれば当日から注射ができます。

【期待できる効果】

- ・アトピー性皮膚炎
- ・アレルギー性鼻炎
- ・アレルギー性皮膚疾患
- ・気管支喘息
- ・血管運動性鼻炎
- ・蕁麻疹
- ・慢性湿疹

【注意すべき副作用】

- ・過敏症
- ・蕁麻疹
- ・発疹
- ・喘息発作
- ・一時的鼻症状増悪
- ・そう痒
- ・眠気
- ・頭痛
- ・疼痛
- ・硬結

医療法人 麗光会
ヨルダー公子クリニック

年 月 日

氏名

生年月日： 年 月 日
